

田川市協働事業提案制度(令和2年度継続事業)採択事業

事業名	地域学校協働活動事業(鎮西校区、大藪小学校)
事業種別	行政提案型(テーマ:地域・家庭の教育力を高める。)
提案団体	NPO法人K'sグループジャパン
市担当課	学校教育課
事業予算総額	525,000円
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と団体が連携した支援体制や支援教室の運営が定着し、継続的に児童・生徒が安心して学校生活を送れる状態になる。</li> <li>・学校と団体の連携が地域や保護者に周知され、団体と学校の教育活動への理解と協力が得られるようになる。</li> <li>・本事業の成果が田川市内の学校関係者に周知され、他校のシステム構築が広がる。</li> <li>・本事業の取組が地元青年のモデルとして地域住民に周知され、より若い世代の社会貢献意識を高める。</li> </ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期・緊急時に学校を訪問し、問題を抱えた子どものための支援教室を運営し、通常の学校運営が出来るよう支援する。</li> <li>・支援教室を活用し、学校が必要と判断した子どもについて、教育相談を行う。</li> <li>・問題を抱えた子どもと保護者への支援として、教職員が家庭に関わる際のサポートを行う。</li> <li>・教職員・保護者・地域住民向けに講座を実施し、学校への理解と協力体制の構築を図る。</li> </ul>
審査結果	採択
審査会講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会側できちんと対処しなければならない課題であり、NPOと協働しながら、教育委員会が全校に主体的に広げてかなければならない。</li> <li>・中身がまだついて来ていないのではないかという気がする。他の学校でもこのような取組が出来ていくなら随分助かると思う。</li> <li>・(個人のスキルに頼るのではなく)言語化して整理して行って、若い世代の方に引き継がれていくようなものにし、地域に広げていかなければいけない。</li> <li>・学校は、教える、指導する(だけでなく)、継続的に寄り添ってあげる、話を聞いてあげることも必要である。</li> <li>・今は、いわゆる個別支援なので、プラス“グループアプローチ”も模索していきながら、色んなノウハウを田川市が持つことが大事だ。</li> <li>・個別支援でやれる人がいる、学校現場が助かるからお願いするという考えを教育委員会が持っているのであれば、それは違う。施策のプロなので頑張ってもらいたい。</li> <li>・NPOは今、専門知識の提供だけでいっぱい、人も足りていない。それ以上のことをNPOに求めてはいけない。</li> <li>・市がどうやって次の似たような団体を発掘するか、人材育成を補完するか、あるいは一部の人の負担がかからないようにするか、そこが少し曖昧である。</li> <li>・経験知をどうやって形式知にするのかというときに、それが出来るのは行政側で、マニュアル化や文章化など、分担をもう少し明確にした方がいい。</li> <li>・(プライバシーのこともあり)具体的に対象者がどれくらいいて、どういう問題を抱えているかということまでは言えないかもしれないが、それをどのようなアプローチで取り組んでいるのかが見えなかった。</li> <li>・しっかり振返らないと、次への課題やビジョンが出てこないと思う。年度末までに、事業の振り返りと協働の振り返りをした方がいい。</li> <li>・エビデンスをつくる時も、心理系の人と繋がれば客観的に見ることが出来て、研究をお願い出来たりする。NPOは色んな人の力を借りてやっていくので、そういう繋がりを持つのもいいと思った。</li> <li>・学校に入ってもらってよかったところを先生たちに文章で書いてもらおうと、市が一から書く必要が無く、そのままケースブックに出来る。</li> </ul>

田川市協働事業提案制度(令和2年度継続事業)採択事業

事業名	「筑豊・田川デジタルアーカイブ」等を活用した持続可能な学び活動に向けた地域資料の収集整理事業
事業種別	市民提案型
提案団体	田川郷土研究会
市担当課	文化生涯学習課
事業予算総額	514,333円
事業目的	現在、大正・昭和初期の写真や地図、伝聞は、所有者の高齢化や写真店の代替わりなどにより急速に失われつつある。本地域には歴史的価値の高い資料が存在しており、これらを収集しデジタルデータ化することで活用が盛んになり、調査研究や学習活動が進むようになることを目指す。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集整理事業(提供資料のデジタル化、カード化、一覧化) 市民などから提供された写真、地図などについて、デジタル化による分類・整理作業を行い、活用環境のための整備を行う。</li> <li>・「町の風景復元」学習会による収集活動 大正・昭和初中期の写真や地図、伝聞を収集し、著作権・著作権などの移譲を受け、デジタル化、カード化、一覧化を行い、活用環境整備を行う。</li> </ul>
審査結果	採択
審査会講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなり具体的な取組が見えてきたので、わかりやすかった。今後、田川市の資料に非常に有効であると思う。</li> <li>・どんどん掘り起こしていったら、良い結果が出れば良いと思う。</li> <li>・色んな可能性が感じられる事業である。個人の写真でも可能性が全くゼロではなく、柔軟に受け入れている姿勢がとても良いと思う。</li> <li>・デジタル黒板で学校にも働きかけ、教育現場にも効果を波及させようとしているところが感じられた。</li> <li>・協働という、市役所と行うのが、地域教育などのニーズがあるので、将来もう少し展開の可能性があるのでないかという印象を受けた。</li> <li>・今から色んな輪郭をつけて形になっていくと思うが、例えば、認知症の方が一枚の写真を基に昔話をするのも大事だと思う。専門性のある方々がチームを組んで形にしていることが素晴らしいと思う。</li> </ul>